

入門レベルの学習者向けの仮名教材作成プロジェクトについて — 整った文字を書くスキルを習得させるために —

宇賀持 綾子・荒川 好子

1. はじめに

今日の社会はデジタルリテラシー社会と言われ、昨今の大学で日本語を学ぶ者の多くはデジタルネイティブだと言っても過言ではないだろう。それ故、2017年のドイツ・ケルン日本文化会館での表記指導の勉強会でも、「もう手書き指導は必要ないのではないか」という議論が行われた。

一方、日本社会では、「書は人なり」という表現があるように、手書き文字に対する意識が高い。2013年には、「現代用語の基礎知識」選ユーキャン日本新語流行語大賞に「美文字」という言葉がノミネートされ、話題になった。2020年10月においても、通信教育講座「ユーキャン」の「実用ボールペン字」という講座は人気講座ランキング6位に入っている。つまり、手書き文字の良し悪しによって、読み手が受ける印象が変わり、整った字であればあるほど好印象を与えられると考えられているようである。

ロシア語で書かれた先行研究においても、Аракава (2013, p.14) は手書き文字は丁寧さの度合いを表現する言語的手段の一つだと述べている。また、Маевский (2000) は、日本語の書道・ギャル文字・パソコンフォント等の文字を例として、文字から受ける印象について詳しく述べており、ロシアにおける日本学でも、文字や字形が読み手に与える影響が注目されていることがわかる。しかし、筆者らが勤務する大学の学習者は、文字学習を自分の読み書きだけのものとして捉えており、自分が書く文字が読み手に与える効果にまで考えが及んでいない。それ故、文字、特に手書き文字は、敬語同様、対人コミュニケーションにおける重要なツールであり、読み手のことを意識して書く必要があることを学習者に理解させることが重要である。

そこで、サンクトペテルブルク国立大学では、整った仮名文字を書くスキルを高め、読み手のことを意識して書こうとする主体性を促す教科書を作成することにした。対象は、学校教育や家庭学習でロシア語の書写を学び、大学で外国語としての日本語の学習を始めたばかりの大学生である。これは、『文字・語彙を教える』（国際交流基金, 2011, p.28）で、字形は導入の段階で整えて書く練習をしておかなければ、悪い癖がついてしまい、後で直すのが困難になると述べられているからである。また、教室活動だけでなく、自律学習もできるような工夫を多く施すこととした。

2. 整った文字とは

本稿で言う「整った文字」とは、字体が正しいことを前提条件に字形の逸脱が少ない文字のことを言う。字体とは、文字の骨組みであり、字形のバリエーションの範囲の枠組みから抽出される共通項のことである。字形とは、手書き文字の間に表れる違いや、手書き文字と印刷文字との違い、明朝体とゴシック体など印刷文字の種類の違いなどで、

漢字に限らずひらがなやカタカナ、ローマ字や数字でも、字体を骨組みとして形が違っていても、文字としての認識ができるものが字形である（文化審議会国語分科会漢字小委員会、2015）。本稿で言う「逸脱」とは、光村図書から発行されている日本の小学校の書写教材に使われている手本と手書き文字との間に乖離が見られ、文字全体のバランスが崩れていることを言う。では、整った文字として認識される条件としては、何があるのだろうか。

『文字・語彙を教える』（国際交流基金、2011、p.28）では、整った字を書くためのポイントとして、角度が適切であること、適度な空間があり、文字全体のバランスがとれていること、線の長さが適切であることが挙げられている。Стрижак（2012、p.116）が提唱している整った手書きの要素の一つに「角度」があり、その角度については、Паюсов（1954、p.241）に詳述されている。それは仮名が整って見える字形のストロークの角度は一定であるというもので、例えば、カタカナの「ス」の一画目の内角は40度が適切であるのに対し、「タ」の二画目の内角は55度が適切であるということなどが詳しく数値で示されている。長石（2014、p.11）は、日本人が手書き文字のきれいさ、美しさ、品質の良さを判断する際、手本の文字にどれだけ字形が適合しているかに加え、間隔の均一さや文字全体のバランスの良さなどの感覚的材料によって判断している。また、小学校の書写の教科書である『しよしゃ2年』（光村図書、p.19）では、「点や画の間」という章で間隔についての説明があり、間隔を等しくすべきであるということを利用して指導することになっている。以上のことから、間隔を等しくすることに着目させて指導することとは、特別な発見やテクニックではないものの、整った手書き文字を書く方法として基本的な事項であると言える。玉木・鶴巻（2013）は、整った文字の評価基準として「とめ、はね、はらい」や「点画の長短」などがあるとしている。また、『文字・語彙を教える』（国際交流基金、2011、p.28）によると、線（長さ、折れ、配置など）が整った文字を評価する基準だとしている。

これらのことから、整った文字の基準を理解させるために、正確な字体と模範的な字形の提示だけでなく、線の角度、空間バランス、点画の終点に注目させ、逸脱の許容範囲を明確にすることが大事であると考えられる。これらの気づきを促すためには、いわゆる「なぞり練習」をさせるよりも、図形や線画によって角度や空間を視覚的に説明することが有効であろう。Tollini（1994）によると、文字全体の正しいバランスは視覚的に表示することによって習得できると言う。

本項では、本プロジェクトで求める「整った文字」の定義と「整った文字」を書くための着眼点を述べた。次に、ロシア語圏の日本語学習者に対する仮名の書き方の指導法を模索するために実施した既存教材の調査についてまとめる。

3. 既存教材の調査

筆者は在留地サンクトペテルブルクで手に入る限りの教材（総合教科書、文字ドリルなど）を約30冊確認して、現行の教材ではどのように文字が紹介されているかを調査した。調査した教科書は、表1の通りである。

表1 調査した教科書一覧

教科書
『こどものほんご』(スリーエーネットワーク) 副教材:『絵でわかるかんたんかんじ 200』
『初級日本語かいわ』(三省堂)
『新にほんご“生活の漢字”漢字み〜つけた』(アルク)
『ストーリーで覚える漢字 300』(くろしお出版)
『できる日本語』(アルク) 副教材:『漢字たまご』
『日本語学習のためのよく使う順漢字 2100』(三省堂)
『日本語かな入門』(凡人社)
『日本の教え方スーパーキット 2 “新選素材” プラス』(アルク)
『一人で学べるひらがな かたかな』(スリーエーネットワーク)
『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 りかい』 『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 かつどう』(国際交流基金)
『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク) 副教材『漢字練習帳』
『A Guide to Learning Hiragana & Katakana: First Steps to Reading and Writing Japanese』 (Tuttle Publishing)
『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Kana Workbook』(講談社インターナショナル)
『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE I Kana Workbook』(講談社インターナショナル)
『Now You're Talking!』(スリーエーネットワーク)
『Азбука катакана』(Антология)
『Азбука Хирагана』(Антология)
『Как пишет в Японии』(АСТ)
『Начальный курс японского языка』(СПбГУ)
『Как различить, запомнить и правильно написать похожие иероглифы в японском языке』 (АСТ)
『Пишем по-японски, Азбука Хирагана』(ВКН)
『Самоучитель японского языка』(АСТ)
『Читаем, пишем, говорим по-японски. Пособие по иероглифике. Прописи.』(Муравей-Гайд)
『Японская письменность от истоков до наших дней』(Восток-Запад)
『Японский за три месяца』(АСТ)
『Японский язык. Знаки и звуки. Нулевой уровень』(Восток-Запад)
『Японский язык 100 иероглифов и 100 слов』(АСТ)

調査した総合教科書の中では、『まるごと 日本のことばと文化 A1 りかい』だけは仮名をなぞって練習できるページが1ページあったが、その他の総合教科書には書く練習ページは設けられておらず、五十音表の提示のみであった。副教材についても、漢字学習の副教材はあったものの、仮名指導に特化した副教材はなかった。

今回の調査結果で、注目すべき点の一つは、悪い例が一つの教科書を除いて提示されていなかったことである。今回調査した教材の中では、『一人で学べるひらがな・かたかな』（スリーエーネットワーク）だけが唯一悪い例を掲載していた。

さらに、そのうちロシアで発行されたものに注目したところ、二つの問題点が認められた。一つは、ロシアで出版された教科書には、明朝体やゴシック体が多く使われていることで、仮名のなぞり書きドリルでも明朝体が使用されている例がある。明朝体やゴシック体は手書き文字とは字形が異なるということを学習者に説明しないまま、明朝体やゴシック体を教科書に使用することは問題である。宇賀持・荒川（2017）の調査では、ロシアの日本語学習者の手書き文字を日本語母語話者に評価してもらい、母語話者と学習者の間に字形の違いによる良筆・悪筆の評価の違いに乖離が見られるかの検証を行った。顕著に違いが現れたのは「ふ」の字形であった。明朝体をコピーしたと思われる手書きの「ふ」は、学習者の採点では高得点であったが、日本語母語話者の採点では点数が低いという違いがあった。

もう一つの問題点は、調査したロシアで発行された教科書の中に、母語（ロシア語）からの影響だと思われる逸脱例やロシア語圏の学習者が特に注意すべき逸脱例がなかったことである。そこで、文字の指導法における母語からの影響に関する先行研究を検索したが、韓国語などからの影響についての論文はいくつか発表されていたものの（東ヶ崎, 2007 等）、ロシア語からの影響についての先行研究を見つけることはできなかった。そこで、ロシア語からの影響による字形の逸脱について検討することにした。

4. 母語（ロシア語）からの影響についての検討

4-1 筆記具の持ち方と位置の違い

押木・近藤・橋本（2003）は、筆記具の持ち方は、手書き文字を書く際の字形と相関関係があることを示し、日本で望ましいとされている持ち方には整った日本語文字を書く上で合理性があるとしている。

日本で適切だとされている筆記具の持ち方は、人差し指には力が入っておらず、筆記具に軽く触れている持ち方である。これにより、親指と人差し指の間には大きな隙間ができる。この方法により、筆記具が動く範囲が広くなり、線を長く書くことができる（押木他, 2003）。

一方、ロシアの児童用の書写教材でも筆記具を強く握りすぎないことは示されている（Безруких, 2006, p.6; Журова, 2014, p.95）ものの、ロシア語圏学習者の筆記具の持ち方を見ると、薬指と小指は強く丸め、人差し指は指先に力が入り、第二関節が鋭角に曲がることで第一関節が外側に反っていることが多い。このような持ち方のまま日本語の文字を書こうとすると、日本語の書写で適切だとされている筆記具の持ち方に比べ、筆記具を手前に引く縦の動きや左右の動きの範囲が狭くなり、直線の長短や傾斜に影響す

る他、「とめ」が「はらい」になるなど点画の終点に影響する。その結果、全体のバランスの悪い文字を書くことに繋がると考えられる。

紙（ノート）の位置についても違いが見られた。日本では体の向きに対して平行に置くが、ロシアでは、筆記体で書くときに右に傾きを持たせるため、ノートを左に30度程度斜めに配置するのが良しとされている（図1, 2 参照：宮澤他, 2016, p.3-4; Безруких, 2006, p.6）。そのため、脇を開いた状態で肘を机の上に置くことになり、肘の動きが固定されてしまう。このことも線の長さや角度に影響し、学習者が手書きする日本語の文字全体のバランスを崩す原因になっていると考えられる。押木他（2003, p.18）は、紙を傾け、肘を前に突き出すこの姿勢は、漢字書字運動の特徴であるZ形運動の妨げになるため、日本語の書字では合理的ではないことを指摘している。反対にアルファベットの筆記体のようなN型の運動が多いロシア語書写の場合には、紙を傾け肘を机の上に固定させるこの姿勢が合理的だと言える。

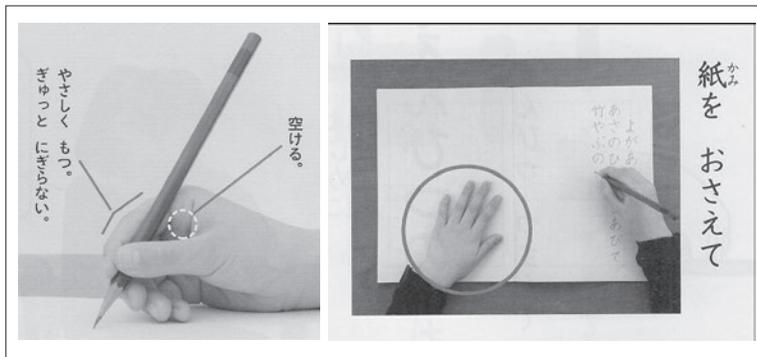


図1 日本での筆記具の持ち方とノートの位置（宮澤他, 2016, p.3-4）



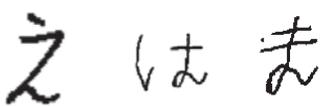
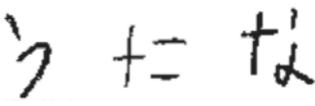
図2 ロシアでの筆記具の持ち方とノートの位置（Безруких, 2006, p.6）

このように、ロシア語と日本語では、それぞれに合理的な筆記具の持ち方や紙（ノート）の置き方があり、母語で慣れ親しんだ方法を適用することがロシア語圏の日本語学習者の日本語の手書き文字の字形に影響を及ぼしているという仮説を立てることができる。ロシアでの一般的な筆記具の持ち方やノートの置き方と、日本で良しとされるそれとを対比させ、日本語の整った文字を書くことと日本で良しとされる筆記具の持ち方やノートの置き方との相関関係についての気づきを促すことが、整った手書き文字への鍵だと考える。

4-2 実際の手書き文字の分類及び検討

上記の仮説に基づいて、学習者の実際の仮名文字の手書きを字形（字の特徴）で分類し、母語からの影響を探った。分類の詳細は表2の通りである。

表2 ロシア語圏日本語学習者の手書き文字の分類

問題の カテゴリー	例	考えられる母語からの影響
筆画	い、さ、た、に、ふ、を、濁点など (最後の点画を払ってしまう)	肘の動きが固定されたり、動く範囲が限られたりする筆記具の握り方の影響
		
	え、な、ね、は、ほ、ま、よ (最後の字画が跳ね上がる)	次の文字に続けて書く筆記体の書き方（N型の運動）の影響
		
筆順	う、え、き、せ、た、な、ま、も、よ、や (、部分、+の横線部分の筆順を後にしてしまう)	点や+の横線は後で書く筆記体の書き方の影響
		
全体の バランス	あ、い、か、む、ゆ、を (文字内のスペースがうまく空けられない)	空間バランスが必要な文字が母語に少ないことの影響
		
	お、は、ほ、ま、み、ん (斜めに傾く)	・縦長で傾いた文字が整っているとされる筆記体の美的感覚の影響 ・姿勢やノートの位置が日本と違うことの影響
		

筆画の問題は二点に分けられると考えた。一つは、最後の点画を止めずに、払ってしまう学習者が多いという点である。これは肘が固定され、人差し指の第二関節が曲がりすぎているので、ペンを手前に引いて書く長い線がうまく書けず、手先だけで線を書こうとしてしまい、点画の終わりが流れてしまう、ということである。

二つ目の問題点は、最後の点画を右下に止める形を持つ仮名で、その終わりが跳ね上がることである。例えば、「は」や「ま」などによく見られる現象である。これは、次の文字に続けて書く筆記体の書き方、つまり、N型の運動の影響だと思われる。そのため、仮名を導入する前に、「とめ」や「はらい」といった書き方の基本練習を十分にさせる必要があるのではないかと考えられる。

筆順の逸脱によって文字全体のバランスが崩れるケースもよく見られる。特に「丶」や「+の横線」に近い部分を有する仮名によく見られる。例えば、「う」の一画目を二画目にしてしまうことで、本来一画目の部分が、英語のiの点部分の筆記体のように他のところに流れてしまって、文字全体のバランスの悪い文字になってしまう現象が見られる。また、「た」の一画目が二画目になって、英語のtの横線部分の筆記体のように書かれてしまった結果、文字全体のバランスを崩す字もある。筆順が正しくないと文字の形が崩れて、時には解読ができないこともあるということを十分に伝えることが必要だろう。

他には、文字全体のバランスが崩れやすい仮名がある。例えば、「か」である。一、二画目と三画目の間に程よい空間を入れることができず、全体がアンバランスになっている例をよく目にする。それ故、「とめ」や「はらい」などの線に注目させるだけでなく、空間をうまく処理できる練習をさせることも必要だと考えられる。

さらに、垂直線が斜めになってしまう事例もよく見られる。たとえば、「は」の一画目と三画目が斜めに傾いてしまう現象がよく見られる。これはノートの傾きを正すことで適切な角度で文字が書けるのではないかと予測している。

5. パイロット版の作成

以上の調査結果を反映し、パイロット版では、下記の項目を取り入れた教科書を作成した。現在はパイロット版のため、著作権フリーの絵素材や他教材などを一部使用しているが、出版までにはすべてオリジナルにし、体裁を整える予定である。

1) 手書き文字が与える印象について説明する

手書き文字の字形の違いが、読み手に異なる印象を与えることについての理解を促すため、Twitterで2013年頃から流行している、「#昔から手書きの文字はその人の性格を表すと言われています」というハッシュタグを活用し、そのハッシュタグで掲載されていた人々の手書きと、いろいろな人の似顔絵を載せて、どの人がどの文字を書いたと思うかを想像させるコラムを挿入した。

2) 角度と線のバランスを視覚的に訴える

2で述べた通り、なぞり練習は入れず、角度や線を視覚的に訴えるようにした。ひらがなは、丸や四角の図形で空間を認識させるようにし、点線で線の位置や角度が確認で

きるようにした。カタカナは丸みのない文字だと認識させるために、直線のみを挿入した。

3) 悪い例を入れる

ひらがな、カタカナの五十音すべてに悪い例を表示した。悪い例は実際に学習者が書いたものを使っている。

4) 筆記具の持ち方とノートの位置を説明する

筆記具の持ち方やノートの位置の説明は、日本の小学校で使用されている書写の教科書(宮澤他, 2016)を参照した。また、ロシア語圏学習者のために、ロシアの児童が使用する書写教材の図を添付し、対比を提示した。さらに、ロシア語での説明ページも添付した。

5) 空間バランスを養う練習を入れる

2ページにかけて空間バランスを養う練習問題を作成した。

6) コンピュータフォントの字形について説明する

手書きとフォントの字形の違いを説明し、図解で明解にした。

6. パイロット版の試用

2020年12月現在、サンクトペテルブルク国立大学東洋学部及び文学部では、学士課程から修士課程まで計117名の学生が日本語を学んでいる。2020年9月から東洋学部日本学科と文学部異文化コミュニケーション学科の新一年生、計37名にパイロット版の使用を試みた。ここでは異文化コミュニケーション学科の新一年生のクラスにおける実践報告についてのみ記す。

文学部異文化コミュニケーション学科では「アジア言語入門」という必修科目の枠内でアラビア語か日本語のどちらかを選択する。日本語に関する授業は週5回×90分で、そのうち週2回(2020年9月15日から10月20日まで計12回)パイロット版を使用し指導を行った。授業は1クラス12名(うち外国籍学生3名)で行われた。今年の新型コロナウイルスの流行の影響で、文字指導をテーマにした12回の授業のうち、外国籍の学生には全回遠隔で対応し、ロシア人学生には対面で3回、遠隔で9回の指導を行った。遠隔授業の間も学生に手書きで筆記させ、画像送付などの方法で添削も行った。

一週目の授業では、五十音表を使って、仮名を読む練習を行った。まずカタカナから始め、続いてひらがなを導入した。先に文字の読みを導入したことによって、教室内の日本語の雑誌を手にとって、日本語の文字が解読できることを喜んでいた学生の姿が印象的であった。

二週目には、仮名の筆記を導入する前に、筆記具の持ち方やノートの位置を英語とロシア語で説明し、点画の書き方のみの練習を行った。入門レベルの学習者の点画の運筆を観察し、どの角度やどの点画が学生にとって難しいのかが把握でき、字体・字形導入前の点画の練習ページの改良点が明確になった。

三週目から五週目にかけては、ひらがなの筆記練習を開始し、特に点画の間の空間バ

ランスに注意を払って指導を行った。遠隔授業が始まり、学生の手書き文字の上に直に訂正を加えることができず、学生から送られてきた画像に加工を施すなどの工夫をした。特に文字全体のバランスが悪い字形を整える練習と、濁音と半濁音の書き方に注力した。例えば、文字全体に対するバランスに対しての濁音と半濁音の点と丸のとり方や、濁音の点と点の間の空間についての説明に時間をとって指導できたことは良い点だった。ひらがなの拗音・促音の書き方の導入では、横書きと縦書きで小さく書く「や」「ゆ」「よ」「つ」の位置が変化することについて説明した。

五週目は、カタカナの筆記指導を始めた。手本と練習マスに入れた直線のガイドラインが学生にとってわかりやすかったようで、整った字形の習得ができ、学生は達成感を感じたようだった。学生の反応も文字全体のバランスもよく、カタカナの導入は今回のパイロット版で一番効果を感じられた。

六週目には、逸脱の多いカタカナの復習とカタカナの濁音・半濁音の書き方の導入を行った。

今年は流行病の影響で、遠隔授業が多く、指導には苦勞をした部分もあったが、担当教員の所感として、パイロット版を導入した今年度は全体的に手書き文字が整っている印象を受けた。今後、導入の効果を検証し、また試行によって確認できた問題点を改良していくつもりである。

7. まとめと今後の活動

以上、入門レベルの学習者のための仮名文字教材を作成するにあたり、留意すべき点を検討した。まず、先行研究からは、角度や線のバランスを視覚で訴えた教材作りが必要だということがわかった。また、既存教材の調査から、悪い例を提示するものが少ないことが明らかになった。さらに、ロシア語を母語とする学習者の場合、筆記具の持ち方とノートの位置が字形の逸脱に影響があることがわかった。そのため、新しく作成する仮名教材では、日本語の筆記に適した筆記具の持ち方とノートの位置を徹底させ、空間バランスを養う練習の導入が有効だと考えた。上記の検討をもとに、新教材のパイロット版を作成し、新一年生に使用を試みたところ、全体的に整った文字を書かせることに一応の成果が出せた。

現在は、パイロット版試用後の細かな修正を行っている。例えば、今回使用を試みた学習者たちの手書き文字の逸脱箇所を確認し、悪い例を追加するなど、教材の手直しを行っている。最終目標としては、2021年度8月末までに出版できるようにしたいと考えている。

参考文献

- 宇賀持綾子・荒川好子 (2017) 「学習者の能筆度とモチベーション・成績との相関関係—表記指導の重要性を探る—」『日本語教育ワークショップ Proceedings』2017 年秋、東海大学ヨーロッパ学術センター
- 押木秀樹・近藤聖子・橋本愛 (2003) 「望ましい筆記具の持ち方とその合理性および検証方法について」『書写書道教育研究』17, 11-20.

- 国際交流基金（2011）『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第3巻「文字・語彙を教える」』ひつじ書房
- 玉木宏樹・鶴巻正子（2013）「発達障害児における漢字の書字—漢字書字の細部エラーに対する教師の評価に影響を及ぼす要因」『福島大学総合教育研究センター紀要』15, 69-76.
- 東ヶ崎祐一（2007）「韓国人日本語学習者の漢字書き誤りの分類の試み」『日本語学研究』18, 113-130.
- 長石道博（2014）「視知覚の場による手書き文字品質評価モデルの書写的および古典文字評価からの妥当性の考察」『日本認知科学会 テクニカルレポート』71, 1-18.
- 文化審議会国語分科会漢字小委員会（2015）『常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）』文化庁
- 宮澤正明・青山由紀・住川英明・中村史朗・樋口咲子・藤井浩治・松本健作（2016）『しょしゃ二年』光村図書
- Tollini A. (1994) 「The importance of form in the teaching of kanji」『世界の日本語教育』4, 107-116.
- Аракава Ё. (2013). Эстетическое восприятие японской письменности и его значимость в преподавании японского языка. *Японский язык в вузе: Актуальные проблемы преподавания*, 9. Москва: Ключ-С. 12-17.
- Безруких М. М. (2006). *Протиси. 1 класс. Рабочая тетрадь No.1*. Косква: Олма медиа групп, олма пресс.
- Журова Л.Е., Евдокимова А.О., Кузнецова М.Н. (2014). *Русский язык. Обучение грамоте. 1 класс. Методические комментарии к урокам Серия: Начальная школа ХХИ века*. Москва: Бентана-Граф.
- Маевский Е.В. (2000). *Графическая стилистика японского языка*. Москва: Муравей-Гайд.
- Паюсов Н. Г. (1954). *Методика обучения иероглифике*. Москва: Дис. канд. фил. наук.
- Стрижак У.П. (2012). *Основы теории и практики японской иероглифики: практикум*. Москва: Моноггарари.

参考資料

- 一般財団法人海外産業人材育成協会（2000）『一人で学べるひらがな かたかな』スリーエーネットワーク
- 岩崎陽子・古賀裕基（2008）『ストーリーで覚える漢字 300』くろしお出版
- 河原崎幹夫（1978）『日本語かな入門』凡人社
- 嶋田和子（2011）『できる日本語』アルク
- 嶋田和子（2012）『漢字たまご』凡人社
- 「生活の漢字」を考える会（2011）『新にほんご“生活の漢字”漢字み～つけた』アルク
- スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語 初級 I 第2版 本冊』スリーエーネットワーク
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター（1992）『初級日本語かいわ』三省堂

- 東京国際日本語学院(2012)『みんなの日本語 初級 I 第2版 漢字練習帳』スリーエーネットワーク
- 徳弘康代『日本語学習のためのよく使う順漢字 2100』三省堂
- 独立行政法人国際交流基金 (2013)『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 かつどう』三修社
- 独立行政法人国際交流基金 (2013)『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 りかい』三修社
- 西原鈴子 (2011)『こどものにほんご』スリーエーネットワーク
- 水谷信子 (2000)『日本の教え方スーパーキット 2 “新選素材” プラス』アルク
- 宮崎道子・郷司幸 (2003)『Now You' re Talking!』スリーエーネットワーク
- 武蔵野市帰国・外国人教育相談室教材開発グループ (2006)『絵でわかるかんたんかんじ 200』スリーエーネットワーク
- AJALT (2012)『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Kana Workbook』講談社インターナショナル
- AJALT (2012)『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE I Kana Workbook』講談社インターナショナル
- Henshall, K. G., & Takagaki, T. (2013). *A Guide to Learning Hiragana & Katakana: First Steps to Reading and Writing Japanese*. VT: Tuttle Publishing.
- Козлов Ю.В. (2010). *Начальный курс японского языка*. СПб: Филологический факультет СПбГУ.
- Корсакова Е. В. (2013). *Азбука хирагана*. СПб: Антология.
- Корсакова Е. В. (2016). *Азбука катакана*. СПб: Антология.
- Кун О.Н. (2006). *Как пишет в Японии*. Москва: АСТ.
- Кун О.Н. (2007). *Как различить, запомнить и правильно написать похожие иероглифы в японском языке*. Москва: АСТ.
- Кун О.Н. (2008). *Японский язык. Знаки и звуки. Нулевой уровень*. Москва: Восток-Запад.
- Кун О.Н. (2010). *Японский язык 100 иероглифов и 100 слов*. Москва: АСТ.
- Надежкина Н. (2018). *Японский за три месяца*. Москва: АСТ.
- Стругова Е.В. & Шефтелевич Н.С. (2004). *Читаем, пишем, говорим по-японски. Пособие по иероглифике. Прописи*. Москва: Муравей-Гайд.
- Судо К. (2006). *Японская письменность от истоков до наших дней*. Москва: Восток-Запад.
- Уолш Л. (2004). *Самоучитель японского языка*. Москва: АСТ.
- Шишова Л.В. (2016). *Пишем по-японски. Азбука Хирагана*. Москва: ВКН.
- (株) 自由国民社 <https://www.jiyu.co.jp/singo/index.php?eid=00030> (2021年1月26日アクセス)
- (株) ユーキャン https://www.u-can.co.jp/company/news/1207914_3482.html (2021年1月26日アクセス)

(宇賀持綾子・荒川好子—サンクトペテルブルク国立大学)